

IPV被害妊婦への早期対応に向けた助産師のための教育プログラムの開発とその効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯島, 亜樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003364

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 26 号

IPV 被害妊婦への早期対応に向けた助産師のための教育プログラムの開発とその効果

(Development and effects of educational program for midwives on early response to pregnant victims of Intimate Partner Violence)

飯島 亜樹 (いじま あき)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】IPV 被害妊婦と接する機会の多い助産師に対する IPV 教育は、机上や対面での知識教育に限られていることから、臨床現場で助産師が IPV 被害妊婦の対応を実践するのは難しい。そこで本研究の目的は、助産師が IPV 被害妊婦への早期対応実践のためのオンライン教育プログラムを開発し、その効果を検証することである。

【方法】インストラクショナルデザイン ADDIE モデルに準じ、分析、設計、開発、実施、評価の手順によって実施した。まず第 1 段階で、IPV 被害妊婦と支援者である助産師双方への妊娠期 IPV 現状把握調査(研究 I-1、研究 I-2)を実施し、助産師が IPV 被害妊婦への支援を実践するには「IPV 被害妊婦の特定」と「初期対応」が重要であることを明らかにした。そこで、第 2 段階では、豪州で教育効果が保障されている教育プログラム(ANEW)(Gunn J.et al., 2006)を基盤とし、「IPV 被害妊婦の特定」と「初期対応」を含めた 15 分程度で構成された 3 セッションの動画視聴と、臨床現場で IPV 被害妊婦との遭遇場面の事例を用いたオンラインによるディスカッションを設計・開発し、一群の Before and After Study によって、助産師 9 名を対象にその効果を定量・定性的に検証した(研究 II)。なお、介入効果は、プログラム前後の質問紙調査および、プログラム終了 2~3 週間後のインタビュー調査にて、助産師の IPV 被害妊婦への初期対応能力の変化、IPV に対する学習意欲の変化、及びプログラム教材の有用性について検討した。

【結果／考察】本プログラム介入後は、介入前より、助産師の『妊婦から IPV の手掛かりを得ようと意識して関わる』、『IPV 被害を受けている女性を特定する』、『妊婦が自身の問題について話すように促す』対応が高まっていた(p<.05)。また、IPV 被害妊婦の特定や初期対応に関するスキルの習得に有用であり、助産師自身の【IPV 被害妊婦への対応の自信】へと繋がっていることが示された。しかし、得られた知識を臨床実践に応用するためには助産師個々のコミュニケーション能力向上とスタッフ間での IPV に対する共通理解が重要であることが考えられた。

【結論】IPV 被害妊婦の早期対応にむけて助産師のために開発された本プログラムは、妊婦健診の場を活用して被害妊婦の特定と初期対応の実践に対し、効果をもつことが示唆された。